

平成30年度M I E職員カアワード 受賞取組概要

【改善活動分野】

募集部門	部局名	活動テーマ	グループ名	取組概要（応募用紙より抜粋）
協創推進部門	部局横断	いざ、紀ノ国へ。高校生と創るインバウンドツアー ～Let's go to Kinokuni～	紀北はまち座	<p>紀北地域の若手県職員でつくる「紀北はまち座」は、日々の業務と並行して、多様な地元住民と連携した地域活性化活動に取り組んでいる。</p> <p>その一環として、今年度、人口減少が続く紀北地域の「魅力」を知ってもらい、多くの人を呼び込むため、地域の未来を担う尾鷲高校の生徒等と連携し、県内在住の外国人を対象にした紀北地域の観光ツアーを企画・実施した。</p> <p>高校生が主体的に取り組み、ツアー内容の企画や勉強会の開催等を通じて、地域を学び考えるきっかけとなった。また、外国人25名の参加があり、参加者のSNSを通じて、約6000名に紀北地域の魅力が発信されたほか、「The Japan News」（英字新聞）にも掲載されるなど、全国の日本在住外国人にも発信された。</p>
職員力向上部門	病院事業庁	医療サービスが受けられない知的障がい者等を支援したい	一志病院 夢プロジェクト	<p>病気になっても不安や恐怖を感じて受診できない、重度の知的障害等がある方が多くいることがわかった。</p> <p>そこで、当院職員が支援できることを検討し、病気になって体調不良の時に受診するよりも、健康で心身が安定している時に受診体験し、成功事例を写真に残せば、不安を緩和していけると考え、病院受診体験の遠足を企画した。</p> <p>障がい者の受診体験にあたって、作業所支援員から配慮すべきことのレクチャーを受けたうえで、診察室で医師の問診、血圧測定や心電図測定等の体験を行った。</p> <p>支援員や保護者からとても喜ばれ、遠足参加希望者が増えてきた。職員にとっても障がい者に対する理解が深まり、意欲と能力の向上につながった。</p>
ワーク・ライフ・マネジメント部門	子ども・福祉部	スケジュールの見える化によるチームワーク力の向上	少子化対策課 少子化対策推進班	<p>仕事と私生活の充実には、班メンバー同士の信頼関係を深め、それぞれの仕事や家庭の状況などを共有して支え合う風土づくりが不可欠であることから、その第一歩として、定期的に共有するミーティングを開催し、班メンバーのチームワークを高める取組を始めた。</p> <p>ミーティングは毎週月曜日の朝に開催し、毎週のスケジュールとともに、仕事の状況や急ぎの業務、他のメンバーに手伝ってもらいたいことなどを共有している。「仕事のスピード優先度（A・B・Cの3段階）」と「仕事内容の重要度（重・中・軽の3段階）」を項目ごとにランク付けしたシートを作成し、短時間で効果的にミーティングができるよう工夫した。</p> <p>各自の業務状況や心配事などが見える化することで、班内の共有が格段に深化し、ライフの都合で突発的な休みが必要となった場合でも、そのサポートが円滑にできるようになった。</p>
成果向上部門	総務部	県税窓口で外国人との意思疎通をスムーズに！	鈴鹿県税事務所 納税課	<p>鈴鹿県税事務所の窓口には、外国人が多く来所するが、職員と意思疎通がスムーズにできず、納税相談が長引くことがあった。</p> <p>そこで、納税相談でよく使われる用語や文章をまとめた外国語版の「指さし案内表」を作成した。言語は、ポルトガル語、スペイン語、英語の3か国語とした。</p> <p>「指さし案内表」を活用し、指さしで税の情報を伝えることで、外国人来所者との意思疎通が容易になり、窓口での対応時間が短縮された。</p> <p>この取組により、県民サービスの向上と業務の効率化を図ることができた。</p>

【改善活動分野】

募集部門	部局名	活動テーマ	グループ名	取組概要（応募用紙より抜粋）
自由テーマ部門	地域連携部	4県共同でのボート規格艇整備 ～国体開催経費の削減に向けて～	国体競技・式典課 競技班	<p>国体のボート競技では、選手が使用する規格艇（76艇）を開催県が整備するルール（配艇制度）となっており、艇の使用年数制限（原則3年）があることから、整備には莫大な経費（約1.2億円）が必要で、大きな負担であった。</p> <p>この経費を削減するため、鹿児島県（2020年）、栃木県（2022年）の国体開催県に加え、使用年数制限の特例適用を要請し、震災復興で財源不足だった熊本県（2019年度インターハイ）を含めた4県共同で整備を行うこととした。</p> <p>入札の結果、本県の負担額は約1030万円となり、1県で整備した場合の約1.2億円から大幅に削減できることになった。</p>

【グッドパフォーマンス分野】

推薦部門	部局名	推薦テーマ	グループ名	推薦理由（応募用紙より抜粋）
ピカイチ部門	地域連携部	南部地域活性化に向けた「度会県」プロジェクト	度会県プロジェクトスタッフメンバー（南部地域活性化推進課）	<p>「観光以上、定住未満」で地域と関わる人びと（関係人口）を増やし、地域との交流をきっかけに南部地域を元気にしたいとの思いから、「度会県プロジェクト」を実施した。</p> <p>メンバーが知恵を絞りながら、度会県民の募集、積極的な情報発信、交流機会の創出などに取り組むことで、大きな注目を集めた。</p> <p>総務省のモデル事業に採択され県費ゼロで実施したこと、明治150年のタイミングを生かした「度会県」の着想が奏功し新聞やネットニュース等で何度も採り上げられたこと、県民登録者数が目標の2倍となる1000人を超えたことなどがピカイチであり、推薦する。</p>
モハン部門	県土整備部	防災砂防課におけるGIS活用の取組	防災砂防課GIS活用チーム	<p>事業者や県民からの問い合わせが多い、砂防指定地などの法定区域の確認について、紙媒体からM-GISを活用したデータベースの構築に取り組んだ。</p> <p>担当者の負担軽減はもちろん、関係機関とのデータ共有による地域全体への波及効果は非常に大きいと考えられ、コストに関しても、既存のプラットフォームであるM-GISの活用により、無償で構築した。</p> <p>問題意識、手段、コストパフォーマンスの観点から素晴らしい取組であり、推薦する。</p>
コツコツ部門	総務部	自分たちでプロ並み仕上げ	コツコツとやってみる会（管財課）	<p>県庁舎を所管する管財課には数々の要望が寄せられるが、限られた財源の中では、必ずしも全ての要望に応えられる訳ではない。</p> <p>そんな中でも、来庁者や職員のことを考え、あきらめずに、業務の担当を超えて団結し、職員の直営で駐車場の環境整備に取り組んだ。駐車ラインの敷設替えによる接触事故防止や、支障木の伐採による落下事故防止と明るさの改善に寄与した。</p> <p>できるかな？ではなく、まずやってみよう！という姿勢でコツコツと取り組んだ姿勢に感服し、推薦する。</p>